

2011 IEEE Leadership Training Workshop in Kumamoto University 報告書

熊本大学 SB Chair 伊藤 優太

2011年11月12日、熊本大学にて IEEE Leadership Training Workshop を開催したので、大会の概要とワークショップの内容について報告する。

1. 参加者

(学生)

北海道大学 2名	明治大学 3名	東京理科大学 2名	兵庫県立大学 3名
東京大学 2名	横浜国立大学 2名	早稲田大学 2名	奈良先端大学 2名
東京工業大学 2名	慶応義塾大学 2名	名古屋大学 2名	京都大学 2名
東京都市大学 2名	東京電機大学 2名	静岡大学 2名	大阪大学 2名
立命館大学 2名	関西大学 2名	山口大学 2名	徳島大学 2名
香川大学 2名	熊本大学 4名(幹事校)		

計 48名

(先生方)

明治大学 井家上先生	東京工業大学 西原先生	熊本大学 井上先生、常田先生
大阪大学 尾上先生	香川大学 澤田先生	

計 6名

(スタッフ)

JC 事務局 島袋さん、加藤さん
計 2名

合計 56名

2. ワークショップ概要

・懇親会

1次会

日時：2011年11月11日(金) 18:00～20:00

場所：熊本大学黒髪南キャンパス 生協(Forico)

参加者：約50名

参加費：Free

※GINI ロゴデザインコンペティションを行う。

2 次会

日時：2011 年 11 月 11 日(金) 21:00～23:00

場所：炭火蔵 熊本下通り店

参加者：約 25 名

参加費：3000 円

※2 次会会場(繁華街)へはバス移動。大学から会場まで役員が先導した。

・ワークショップ

日時：2011 年 11 月 12 日(土) 9:00～15:00

場所：熊本大学黒髪南キャンパス 共用棟黒髪 1 1F 講義室

参加者：56 名

3. ワークショップ内容

- ・ Leadership Training (尾上先生)
- ・ Report of R10 Student Congress (明治大学：小池さん)
- ・ Self Introduction and Student Branch Activity Report (各大学 4 分ずつ)
- ・ Report of JC GINI (北海道大学：時さん)
- ・ Workshop

～グループディスカッション「東日本大震災」～

参加者を 8 グループに分け、40 分グループディスカッションを行い、各班 3 分程度で簡単なプレゼンテーションを行う。

予めキーワードとテーマを以下のように設定した。

「**IEEE**」 震災からの復興や、防災、地震予知に向けて、IEEE もしくは電気、電子、情報技術が貢献できることはあるか？

「**原子力発電所**」 原子力発電所をなくすべきか？なくすとすればどのような代替エネルギーで賄うのか？必要なら脱原発派の人々をどう説得するか？

「**節電**」 冬場の節電に向けて私たちが出来ることは？計画停電や夏場の節電の経験をどう活かすか？

「**就職、経済活動**」 企業が採用時期を遅らせたことは、学生にどのような影響を与えたか？被災した企業には復興に向けてどのような援助が必要か？

「**放射能汚染**」 放射性廃棄物を今後どのように処理していくか？風評被害を防ぐ為にはどうすればよいか？

これらのテーマを選ぶか、自由にテーマを設定するかは各班の自由とした。

ワークショップの各班のレポートは最後のページに添付する。

4. 感想

全体を通して、非常に有意義な2日間となった。熊本大学は役員が4名と少なく、会場設営や2次会会場への誘導が大変だったが協力して進めることが出来た。各ブランチでの活動報告では、特に関東、関西圏の大学が積極的に活動を行っていると感じた。地方大学だとどうしても大学間の連携が薄くなりがちだが、できるだけ連携を深め、魅力あるワークショップを開催できれば会員の増加にも繋がると思う。

ワークショップでは各班とも活発な意見が飛び交い、大変充実したものとなった。ほとんどの班が新たにテーマを設定し、積極的に参加してくれたと思う。短時間でスライドを作りパワーポイントでプレゼンテーションをした班もあり、質疑応答を含め大変盛り上がった。

懇親会やワークショップを通じて、様々な大学の学生や先生方と交流を深めることが出来、いい刺激になった。これからも Facebook などを通して、つながりを保っていききたい。

5. 要望

交通費の精算についての質問を数多く受けたが、精算方法などこちらで把握していない部分が多かったので対応に困った。精算方法などは予め各参加者に通知していただければ有難いと思う。

6. 謝辞

本ワークショップの円滑な運営には各大学の参加者の皆様、先生方、IEEE Japan Council スタッフの皆様の多大なるご協力を頂きました。心より御礼申し上げます。

グループディスカッション「東日本大震災」レポート

グループ [A]

テーマ:

「パニックによる二次災害を技術的観点から考察する」

2011/3/11 ⇒ 携帯が使えない, 公衆電話に殺到.

PHS, 固定電話は使える?

★ 1995年 阪神大震災の時は他の事の方が問題になった.

解決が緊急の課題



ハードウェア的受容能力向上でなく,

使用する人間側への制約で改善できるか?

。つながらないので繰り返しかけ続ける

競合型のモデルが問題。



緊急時のみ, あらかじめ登録した番号のみ,

決められた回数のみしか呼べないシステムを

提案。

← 良い点 悪い点 → について議論しました。

グループディスカッション「東日本大震災」レポート

グループ [B]

テーマ: 技術者と原子力発電所

1. 原子力発電所は必要か?

- 必要 (自然エネルギー等の代替エネルギー...)
- 一定の電気を確保できる様にならなければ、いけないのでは?
 - 実際に運営が止まると、企業等がまわらない、産業の停滞
 - 原子力に関する技術を途絶えさせないため

技術系の人には、必要だと感じるだろうが、
文系の人には、反対なのでは?

→ 確かに安全に運営するが

2. 技術者として、安全な原子力発電所の運営に対してどの様なことをできようか?

→ 作り手側と、運用側との技術共有 (一次的ではなく継続的に)

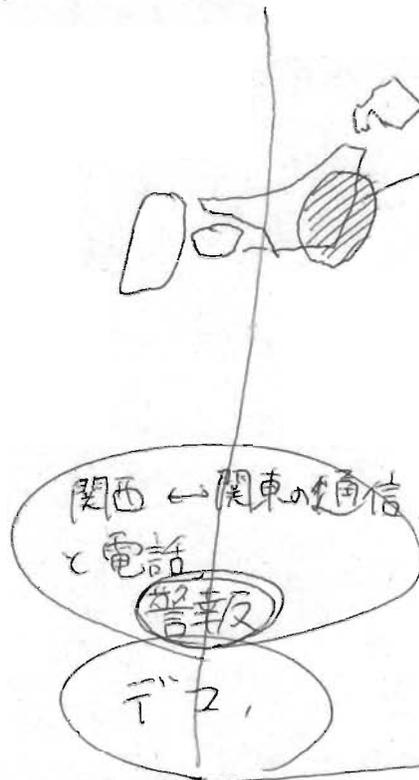
グループディスカッション「東日本大震災」レポート

グループ [C]

テーマ: 認識誤差

当日

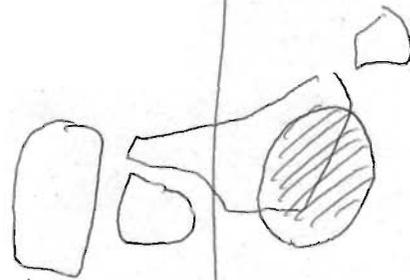
- ニュースで知る



- (物が)崩壊
- 帰宅困難
- 体感(直接)
- えき状況
- 誤情報
- USTREAM

その後数週間

- 助けたい気持ち
- 無力感
- 情報のみ
- 生活に影響なし



- 物がなくなった(入荷)
- 電車(物置は)
- ガソリン不足
- 食飲品不足
- グミとか残る
- 地方に逃げる
- 余震

~~被害者~~

• 双方向の通信の重要性 (twitter etc)

グループディスカッション「東日本大震災」レポート

グループ [D]

テーマ: ④

義援金の使い道

○ 義援金の使い道をどうするか?

2500億円以上 (2011年6月)

15%しか使われていない

○ どんな使い道? 「東北の人達の生活」 751358人が避難

★ 被災した人達の生活補償

★ インフラの整備

★ 放射能の除去

★ 過去 (神戸の復興) から学ぶ

★ 糸原川返りなどのために { 津波対策

過去から学び、早急に

「インフラの整備と生活補償を!!」

(電力問題は後回し) =>

↳ 日本全体の原子力発電不足など

重要性を上げて?

使用

政治家の義援金決定

を早急に行う為に

ガイドラインを作る



グループディスカッション「東日本大震災」レポート

グループ [E]

テーマ: 原子力発電所と節電

・原子力発電所の数を減らす

→ 代替エネルギー

・地熱 / 太陽光 / 風力エネルギー

↑ それぞれ利権とか技術面は向是頁
地熱 国立公園とか利権 太陽光・風力 主に技術
原発を今すぐ全面的に減らすのはムリ。
技術発展を待って ~~→~~ = いろいろ>ジ>に...

→ 総消費電力の削減

・ネオン / 電球

・工場のシフト制運用 etc...

国力を維持しつつ、原発をなくしていくには
おやみに↑するだけじゃなく

「根本的には」

ただし、どれも表面的な解決策ではなく、それぞれの面(工業・製産、個人etc)
について具体的に今現在どれくらいの消費電力量であり、↑のようでは
ことをすればどれくらい削減できるのか、どれで足りるのか、個々に明確
に必要がある。
計画的に

グループディスカッション「東日本大震災」レポート

グループ [F]

テーマ: 災害とICT

災害とICTについて考える

- ・ Twitter や Skype など ICT サービスが活用
- ・ 一方、電力料金はかさね
- ・ Free スポット など



契約者のため、会員などに
保たれ... 事故...

→ 対策案: 電柱無線化計画

本邦の各電柱に、無線LANをのせる

・ FEN → F3型TX-1

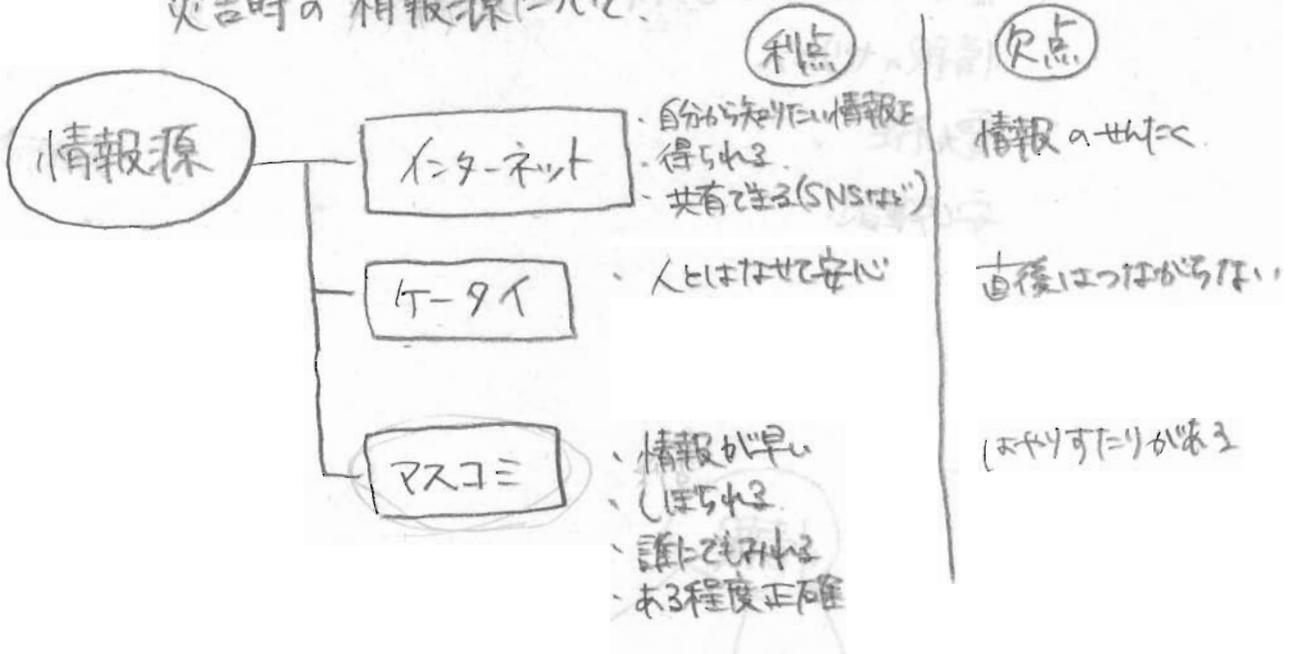
・ 自宅のNTT (= 3000円/月) 却る → 国に税金を

グループディスカッション「東日本大震災」レポート

グループ [G]

テーマ:

災害時の情報源について



災害時の3つの活用法について

災害時にも高い確率で使えるマスコミが情報源として有益

マスコミの欠点として

- ・知りたことと得られるとは限らない
- ・多くの局が来社にもかわらず"情報が"限られている

- ◎ マスコミ各局 独自の情報を分担して
より多くの人に答えられる情報源として
変化していくべきである。

「東日本大震災」による「電力」の問題

問題

産業の回復と対策、今後の成長

情報のやりとり

電力不足

安心確認

電力不足

電力

電力

取組み



短期 — 安全確認、津波情報、物

中長期 — 物資のやりとり、放射能関連の情報

正しい情報

停電の復旧について

震災と情報

メディアと震災

震災と情報
 震災と情報
 震災と情報

グループディスカッション「東日本大震災」レポート

グループ [H]

テーマ: 災害時の問題点と対策

災害時の問題点

- ・ 電力不足
- ・ 帰宅難民
- ・ 買いしめ
- ・ 通信インフラ
- ・ インフラ

電力不足の対策(夏)

- ・ エアコンを使わない
- ・ エアコン = 28°C + 扇風機
- ・ 蛍光灯の本数を減らす
- ・ LEDの使用
- ・ 電卓、看板の照明

冬に向けての電力不足対策

今から何かをやる必要がある

(エアコンと石油ストーブ)

電池、食料を早めに準備

・ ホッカイロ、湯たんぽ

・ ソーラーパネル → クリーンエネルギー

すぐに来る事

- ・ LEDの使用
- ・ 買い置き
- ・ 電池、(食料)
- ・ 湯たんぽ

長期的に行うこと

- ・ クリーンエネルギー
- ・ 電力網の整備
- ・ 帰宅難民をほじかないような対策
- ・ 市民ホールの開放
- ・ 毛布の準備
- ・ 災害時のインフラ強化